

日刊 勤労千葉

81.7.25
No. 802

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆 電話三三二七二〇七

「ガンバレーノ」厚い獄壁を越えて
取場の仲間の声が、今日も届けられる。
(千葉刑務所正門前にて)



津田沼支部 新執行体制のもと 怒りも新たに、全組合員が総決起!

千葉県警・船橋署の早朝、寝込みを襲った六名の仲間の不当逮捕(七月十五日)、さらに千葉地検・地裁による反動的な勾留延長決定は、勤労革マル反動分子と結託し、真に闘う勤労千葉を破壊せんとする極めて悪質な攻撃である。

とりわけ、津田沼支部は、執行部の半数におよぶ逮捕、弾圧を加えられたのである。

このような邪悪な意図をもった不当弾圧に對し、わが勤労千葉は津田沼支部を先頭に千三百名の総力をあげた反撃の闘いを開始している。津田沼支部は、直ちに山下幸支部長を先頭とする暫定執行部を確立し、現場協議をはじめ日常組合活動の全てを完全にとり行うことはもとより、何よりも「不当弾圧粉碎」

「本部」反動分子弾劾「一掃」にむけた全員の怒りの総決起がかちとられ前進している。

本部は、六名の不当逮捕者に対して、直ちに顧問弁護団による連日の接見体制をとりきるとともに、津田沼支部の仲間を中心に連日の家族激励やさし入れなど、猛暑をふきとばしてフル回転している。一方、全職場で、即時釈放を求める緊急署名運動・カンパ闘争も活発に展開されており、それには予想をはるかに越える国労の仲間からの多くの協力がよせられている。

このような熱気あふれる連日の活動の上に、七月二十三日には、六名の仲間の「勾留理由開示公判」が千葉地裁で開かれ、全支部から二五〇名が結集し意気高く闘いぬいた。

不当弾圧の怒りに燃え 「六名は俺たちの手で奪還する」

七月十五日以降、津田沼支部では、職場の仲間の強いききながら以前にもましてつくり出されている。

山下支部長以下、暫定執行部は連日、支部組合事務所をろう城体制をしき、昼夜をわかつた全組合員の意志結集をかちとり、全組合員が一人の例外もなく、毎日何らかの任務をひきうけ奮闘している。

組合員は、出勤するとまっ先に組合事務所立ち寄り、役員から状況報告・方針を聞いてから勤務、乗務につくのである。そして、乗務の終わった組合員は早く組合事務所につけ、六名の仲間とその家族への救援・激励行動などのために一人ひとりが力を寄せあつて活動している。また、昼休みには検修や事務職場の組合員が中心となつて、ピラつくりや看板かき・掲示はりなどをやるのである。

組合事務所の手話ひっきりなしに鳴っている。乗務中の組合員や他の支部からの問い合わせや激励の手話である。また、他単産の

組合や全国の勤労内外、支援諸組織からの激励やカンパ・檄布・寄せ書きも連日寄せられ、三月ジェット決戦ストライキに決起した時のような熱気を感じさせる。

若い検修係の仲間は、勤務終了後、執行部と共に泊り込んで活動に学習に汗を流している。

津田沼支部全組合員は、いま、あらためて勤労「本部」革マル反動分子嶋田誠、斉藤吉司らへのにえたぎる怒り、憎しみを腹の底から感じるとともに、彼らのファシストとしての本質をしつかりと見ぬいて、この不当弾圧攻撃に大きく立ち向かっている。

あの「四・一七武装襲撃」をはねかえし、労農連帯の大義にかけたあの歴史的な三月ジェット決戦ストを敢然と打ちぬいた拠点・津田沼。勤労千葉の最強の拠点であるがゆえに、「本部」革マル反動分子と権力・当局の憎しみを一身にうけ、今回の計画的・悪質卑劣なデッチあげ・告訴・逮捕の組織

千葉刑での激励行動 六名の仲間を大きく勇気づける

破壊攻撃をうけ、文字通り血を流し闘っている拠点・津田沼。

われわれは絶対に勝利しなければならぬし、必ず勝利できる。今日の津田沼支部の仲間の一丸となった闘いの姿ははつきりとその

獄中の六名の仲間は、今、たった一人で強大な権力と闘いぬいている。

われわれは、この仲間の苦闘を受けとめ、共有し、不当弾圧抗議の宣伝隊を編成し、連日、千葉刑務所での激励行動、反動千葉地裁・千葉地検への抗議行動、労組・市民への呼びかけ、駅頭情宣などを展開してきた。

十六日から始められた、各警察署にむけた抗議と激励の闘い、また勾留場所が千葉刑務所へと移った後十八日より毎日、朝・昼・晩と大音響のスピーカー四器を備えた宣伝カーから、毎日さまざまな顔ぶれの仲間がマイクを通して友情のこもった「ガンバレーノ」の声や職場や家族のガンバっている

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

様子の報告は、獄壁をこえてはつきりと六人の耳にもとどき、「一番のたのしみ、何よりも勇気づけられる」ものとの報告が伝えられている。

全ての皆さん! 獄中で闘う六名の仲間、さらに、不当な出頭命令攻撃と対決し闘っている四名の仲間をあくまで守りぬき闘いぬいていこう。